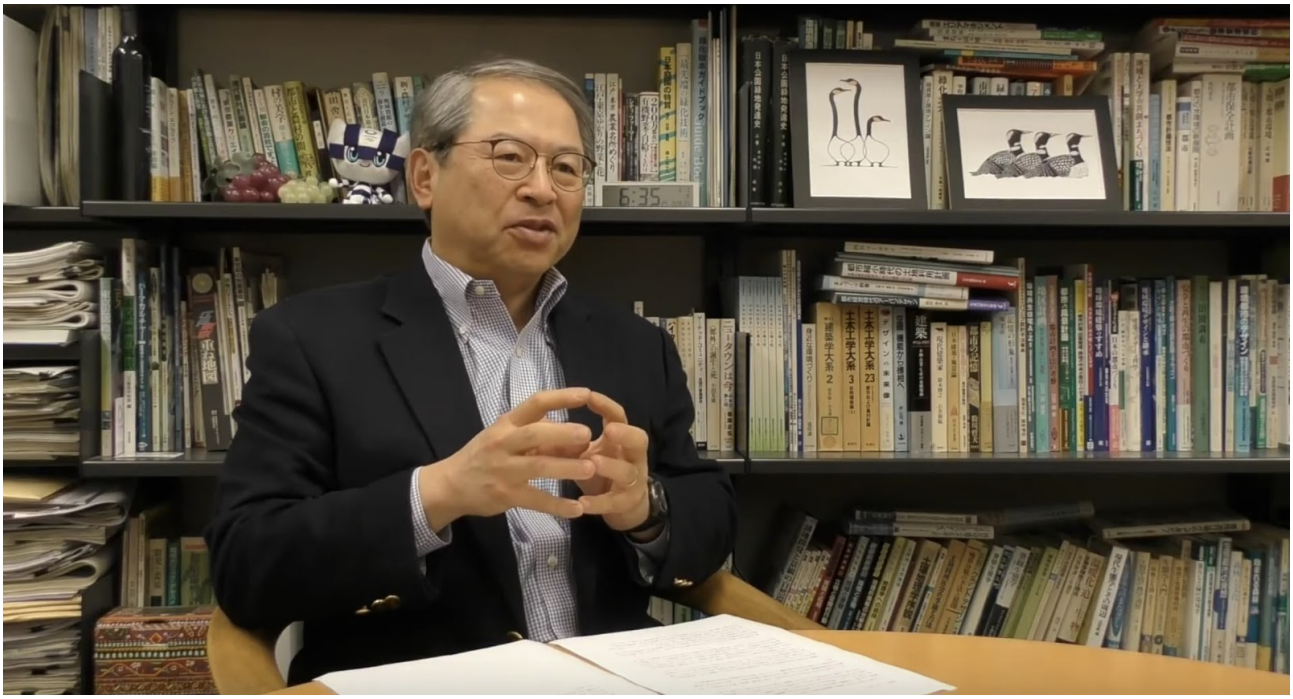
MATSUDOING2050
～わたしがつくる！まつどのみらい～
第6回ワークショップ(インターネットを活用した意見募集)
動画テキスト

2020.3.19

横張真氏冒頭あいさつ



これまで5回に渡って皆さんと議論を重ねてきたMATSUDOING2050は、今回が最終回とはなっていますが、ご承知の通り、新型コロナウイルスにかかる情勢の中で、今回は非常に変則的な形で実施することになった件につきまして、まずはこれまで開催に関わってきた身としてお詫びを申し上げるとともに、ぜひご協力、ご理解をいただければと思う次第です。

少し振り返ってみますと、ちょうど今から9年前、私達は大きな地震と津波、さらに原子力災害という、未曾有の危機を経験しました。その後にも全国あちこちで震災が起きたり、また昨年は2つの大きな台風によって甚大な風水害が発生し、そして今、このような伝染病が世界を震撼させている。このような状況にある中で、これまで私たちが、黙っていても手に入ると思っていた日々の安全安心な暮らしが実は幻想に過ぎなかった、ということを痛感しているのだと思います。

特に日本の場合は戦後、急速な科学技術の発達とか、それを背景とした経済的な繁栄の中で、何かあっても技術や強い経済が何とかしてくれると、何となく信じてきたわけです。しかし実はそれが幻想だったということが、さまざまな災害を経験する中で私たちはわかってきたことなのではないかと思うのです。

そうした際にどうするか。私の専門分野の一部に「エコロジー」という学問分野があります。この分野は、ある生物の集団が安定的に存在する上では、多様性が大事だと教えます。すなわち、似ているけれどちょっとずつ違う物がいっぱいいる、という状況がある集団を安定させる上で非常に大事であると。

それに対して経済学では逆に、似たようなものが重複して存在していること(=リダンダンシー)はむしろ経済的には非効率であって、その時の状況に合わせて最も適したものに特化することが一番経済効率が高い、というわけです。

つまり、一方では多様性が非常に大事だが、他方では多様性をなるべく絞って効率化することが大事であると。

おそらく松戸のまちづくりの今後を考えていく上でも、こうした2つの要因をうまくバランスさせることが大きく問われるのかと思います。しかし、それは単純な問いではなく、どういう塩梅で何をバランスさせるのか、それを考え続けなければならない。かつ、単純にひとつの答えに収斂(しゅうれん)するわけではなく、ある意味逆説的かもしれませんが、ずっと議論を重ねていくこと自身が実は答えである、ということなのかもしれません。

今回で6回のワークショップが終了するわけですが、私たちがこれまで議論してきた松戸のまちづくり、松戸の未来は決してこの6回の中で答えが出るとか、それで終わりになるということではなく、これからずっと様々な形で議論を重ねていく。しかもそれが色々な立場や職位、年齢、松戸に何年住んでるか、ということに優劣があるわけではなく、フラットに色々な方々が一緒になって議論をしていくことが何よりも大事だと思うのです。

今回でワークショップは一旦区切りになりますが、是非色々な形でこれからも松戸のまちづくりに関わって頂く、色々な機会に色々な意見を出して頂く、私としてはそれを強く皆さんに期待したいです。